Course number		U-LAS70 10001 SJ50								
Course title (and course title in English)	III.ASレミナー 小ほ婦体にのける患食期				uctor's e, job title, department filiation	Graduate School of Education Associate Professor,NOGUCHI TOSHIKAZU				
Group	Semina	eminars in Liberal Arts and Sciences Number of credits 2					weekly	Number of weekly time blocks		
Class style		inar ce-to-face course	Year/sem	nesters	2025 • First semester		Quota (Freshman)		(7)	
Target year Ma		ıly 1st year students	1st year students Eligible students		For all majors		Days and periods		Ved.5	
Classroom	Seminar room 5, Research Bldg. No 2 (Main Campus)						nguage of Japanese			
Keyword 思春期 / 臨床心理学 / カウンセリング / スクールカウンセリング / 子ども										

[Overview and purpose of the course]

思春期は、心身の大きな変化が生じ、こころの不調にも見舞われやすい時期である。身体的には第二次性徴が起こり異性への関心が芽生える時期であるし、心理発達においても自意識や他者意識が確立されることの影響は非常に大きい。この時期について、特にカウンセリングや臨床実践の文献を購読し、ディスカッションしながら理解を深めたい。

[Course objectives]

臨床心理学の観点から思春期について理解する

自身の体験や現代文化の影響も考え合わせ、昨今の思春期の悩みのあり方について考察する力をつける

[Course schedule and contents)]

思春期に関する文献講読とディスカッションを中心に進めます。

第1回オリエンテーションと自己紹介

*特に小学校高学年から高校までで、ハマっていた物語作品についてプレゼンしてもらいます(要準備)

第2回 グループワーク1

第3回 グループワーク2

第4回 グループワーク3

|第5回||文献1

第6回 文献2

Continue to ILASセミナー : 心理臨床における思春期(2)

||ILASセミナー : 心理臨床における思春期(2)

第7回 文献3

第8回 文献4

第9回 文献5

第10回 文献 6

第11回 文献 7

|第12回||文献 8

第13回 文献 9

第14回 文献10

第15回 フィードバック

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

授業への参加状況(50%) 小レポート(50%)

[Textbooks]

岩宮恵子 『思春期センサー 子どもの感度、大人の感度』(岩波書店,2025)

[Study outside of class (preparation and review)]

文献を入手し、各自で事前に読んで、印象的だったポイント、そこから考えたことを言語化しておくこと。ディスカッションの準備のためなので、レポートのように体裁の整ったものでなくても構わない。

初回のみ、自己紹介の一環として、思春期にハマっていた物語作品について5分間でプレゼンして もらう。小説、漫画、アニメ、映画、ゲームのストーリー、絵本など。フィクションに限らず、自 身のこころを打った実在の誰かのライフヒストリーなどでも構わない。

どんな物語で、どういうところが自身の心を打ったのか、その作品を知らない他者に短時間で伝わるように言葉を工夫すること

プレゼン方法は、口頭でもよいし、画像などを見せてもらってもよい。 (プロジェクターなしにはなるが)PCやタブレットなどでスライド資料を提示してもらっても構わ ない。

[Other information (office hours, etc.)]

メールで連絡してアポイントを取ること

[Essential courses]